


# 大けやきの 瓦版

第6号 2024年1月21日

発行者  入間小のケヤキを  
未来につなぐ会

電話 050-3635-1920

メール keyakinomirai1920@gmail.com

大正9年、4人の子ども達が小さなケヤキを見つけて植えました。入間小の校庭に根付いて102年、狭山市の景観地50にも選定された入曾のシンボルです。

市の計画に従って存続の危機に立たされましたが、入曾のみならず全国のみなさんの想いが集まり、おかげさまで商業施設との共存が決まりました。いつまでもこの大けやきが入曾の歴史を刻んでいけるよう、これからも見守ってください。

さらに詳しい情報は、入間小のケヤキを未来につなぐ会の公式サイト <https://keyakinomirai.com> へ SNS は「@tsubuyakukeyaki」(X (旧 Twitter), Instagram) または「けやきのみらい」(Facebook)

## 市民文化祭にぎわう

### 親子連れや市外からも

昨年11月2日～5日、「あなたと私(けやき)の間柄展」を入曾地域交流センターで開催しました。これは、同期間に開催された狭山市民文化祭(入曾会場)内で展示部門の一団体として会が参加し企画したものです。間柄展では写真や「つぶやくけやき」の詩の展示、来場者と共に作品を作る参加型イベントを行いました。

当日は、文化祭の関係者だけでなく、間柄展を目的に来場した地元住民や署名をきっかけに大けやきを知り周辺市や他県から足を運んだ人もいてにぎわいました。昔の入曾を知る人や大けやきを植えた児童の親族との交流もあり、会にとって貴重な機会となりました。中には、展示した写真パネルの前で記念撮影する親子連れなどもいて、会として



市民文化祭で大けやきの写真と詩を眺める来場者 (入曾地域交流センター)



参加型イベントでは大けやきが見える場所を来場者にピンで示してもらった企画してよかったと感じています。

今回の展示費用には、これまでのご寄付とグッズ販売の収益を充てさせていただきました。温かいご支援に感謝いたします。今後もみなさまと共に大けやきを感じ、考えられるイベントを開催していきたいと考えています。

**昨年に会が主催・参加したイベント**  
▽あしたの入曾会議(1/14)▽アート展示会イリマジロ(7/30)▽市民文化祭(11/2～5)▽けやきの茶話会(12/23)  
—今後開催されるイベントは随時WEBサイトに掲載する他、一部は瓦版やSNSでもご案内していきます。

冬場のケヤキは枝ばかりで寂しくみえますが、すでに”葉っぱの子ども“が待機しています。前年の夏から秋、まだ大きく繁っている葉の付け根に次の年の葉になる「葉芽」がつくられます。季節が進むと休眠状態の「冬芽」になりますが、ケヤキの場合、表面にうろこ状の「芽鱗」をまとって冬を越します。まるで人間がコートを羽織るようにしながら、暖かい春の訪れを今か今かと心待ちにしています。

連載  
ケヤキを  
知ろう!

## ケヤキも寒いから コート着る!?



冬芽が枝に付く様子(左)、表面の芽鱗(中)、冬芽の断面(右)

※いずれの写真も入間小のケヤキではない



@tsubuyakukeyaki

冬のケヤキはシルエットが美しいとよく褒められます。葉っぱが無くなると、おひさまの力を借りて、入間小の校庭に大きな絵を描いて遊んだりします(12月19日)▼このコーナーでは、郷土史家の故・新井太郎さんの詩「けやきのつばやき」にヒントを得て、会が日々SNS(XやInstagram)でつぶやいている文や写真を大けやきの気持ちとして紹介しています。



オンラインショップや対面でオリジナルグッズを販売しています。寄付は飯能信金入曾支店普通 2108903 またはオンライン寄付サイトで受け付けています。詳しくは、会のWEBサイトをご覧ください。今後も継続してけやきを見守っていただけるように、会へのご支援をよろしくお願いいたします。

## 署名最終提出で 17,628 筆に

### 市部長「決してケヤキ憎んではない」

昨年8月21日、「旧入間小のケヤキとイオンとの共存を求める署名」の第5次提出を市に対して行い、署名活動は完全に終了しました。署名開始以降寄せられた署名は最終的に17,628筆となりました。

署名提出では会の代表から市に対し「伐根はとりあえず1年ごとの猶予ではあるが、施設と共存する形に転換してもらえたのは市職員のおかげだ」と謝意を伝えました。提出に立ち会った市の田中徳蔵都市建設部長は「私たちは決してケヤキを憎んでいるわけではなく、そこに来て怪我やいろいろな問題が生じなければいい」と述べ、イオン側が配慮を約束した以上残すことにしたと説明しました。代表は「(計画前から)ケヤキを残したいという住民は多かったと思うが市に生の声が届いていたのか疑問だ。これは入曾に限ったことではなく、(他の事業でも)直接聴いてどう反映し

ていくか、しっかり考えていってほしい」と住民参加の促進を求めました。

署名活動は終了しましたが、市とイオンとの覚書が履行され署名の要望事項

#### あなたの思いが 入曾を創る (代表コメント)

市も後継木を用意するとまで言った、人々の思い出のケヤキ。この木を残せない理由とはいったい何か。素朴な疑問と大けやきの愛らしさから、ことの経緯を調べ始めました。早ければ来月にもと知り、入曾を訪ね歩き、想いを同じくする4人と思いついて立ち上げた小さな署名活動。運命を変えることができたのは、まさに署名や活動に協力してくださった多くの方々あってのことでした。改めて最終提出の節目に、支えてくださった皆様に御礼申し上げます。また、大けやき存続の実現は周辺にお住まいの方々のご理解やイオンのご厚意あってのことと、重ねて深く感謝申し上げます。

今回の署名活動が残した結果は、単に思い出の木を残したという情緒的なことに留まりません。名木の存否を通して、いま変わりゆく入曾に何が求められるのか、一人ひとりが考えるきっかけをくれました。みんなが思っている形にしなければまちは変わらないこと——それを教えてくれた出来事かもしれません。今回、入曾には実に多彩な経験や知識を持つ人が暮らしていることを私は知りました。一人でも多くの方が係わって“みんなで創り上げることが普通”のまちになれば、入曾の未来はきっと明るいはずだと信じてやみません。



福住勇矢



会の代表(左)から都市建設部長に手渡される最後の署名の束

が実現するよう、会は今後も積極的な取り組みを続けてまいります。